

改定医療法・院内感染研究会(含む『新型インフルエンザ対策』)

『外来での医療安全管理』

『院内感染対策』

日時 11月7日(土) 14~17時

会場 伊丹市立商工プラザ4F会議・研修室A

講師 公立学校共済組合近畿中央病院・医療安全推進室長・副看護部長
氏同医療安全推進室・感染管理認定看護師
氏

参加費 1,000円(受講された方に受講証をお渡します)

一昨年4月の医療法「改定」によって、「すべての医療機関の管理者は、医療の安全を確保するための指針の策定、従業員に対する研修の実施をはじめとする、医療の安全を確保するための措置を講じなくてはならない」とされ、具体的な措置として①医療安全、②院内感染対策、③医薬品安全管理、④医療機器安全管理の体制の確保が義務付けられました。

その中で、特に「医療安全管理」「院内感染対策」に関しては、職員・従業者の研修を年2回程度実施することが求められています。

職員・従事者研修については、無床診療所(医科・歯科)の場合は、外部研修でも認められることから、支部で研修会を企画しました。今回はじめて近畿中央病院の取り組みをご紹介いたします。ふるってご参加ください。

【FAX返信】 兵庫県保険医協会北阪神支部担当行 078-393-1802

「外来での医療安全管理」「院内感染対策」(11/7)に
参加する () 人

医療機関名

お名前と職種

TEL

FAX

兵庫県保険医協会

北阪神支部
ニュース

09年10月25日号 No.198
発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
TEL (078)393-1801 FAX (078)393-1802
http://www.hhk.jp/

第5回医科・歯科合同在宅ケア研感想

現場で役立つ嚥下ケア



伊丹市 林 宗茂

平成20年12月頃の北阪神支部幹事会で、今回の研究会のために自ら提案し、共催の製薬会社にお願いをして、いろいろな準備、打ち合わせなど大変苦労してまいりましたが、10月3日(土)午後4時から6時まで伊丹シティホテルにて、北阪神支部第5回医科・歯科合同在宅ケア研究会を開催することができました。

医師、歯科医師、薬剤師、コ・メディカルなどを含め、78人が参加され、臨床に役立つ大変有意義な研究会になりました。

「脳卒中患者のケーススタディ～在宅の現場から」というテーマで、3科目の専門医の先生方(脳外科・島田真一先生、耳鼻咽喉科・藤木宏也先生、歯科・川村雅之先生)にご講演をしていただきました。脳血管障害における急性期から回復期・維持期の過程で、高率に嚥下障害を合併し、嚥下性肺炎から急性心不全で死亡するケースが増加しつつあるということや(急性肺炎は死亡原因の4位)、嚥下のメカニズムを詳しくモニターなどで説明され、VF、VEなどで早期診断をして嚥下障害の評価をすることが大切であるという内容でした。

パネルディスカッションでは3人の先生方が嚥下障害の予防について、嚥下リハビリや栄養管理、口腔内ケアなどが大変重要であるとわかりやすく話されました。在宅やその医療現場で働いている私たちには大変役立つ講演会でした。

また、その後の質疑応答でも活発な意見や質問があり、盛大に終えることができました。3人の先生方、大変お疲れさまでした。

最後にご協力いただいた大日本住友製薬株式会社様には大変感謝いたします。ありがとうございました。



現場での職種間連携の重要さを再確認

第24回支部総会記念講演感想

元気な高齢者が医療を救う

宝塚市 脇野 耕一

北阪神支部は9月5日、伊丹市立商工プラザで、第24回北阪神支部総会を開催。総会議事では城田勲先生(伊丹市)、澤村新先生(宝塚市)が新幹事に選出された。

記念講演では日生協医療部会運営委員長・医療生協かわち野楠根診療所所長の高橋泰行先生が「アクティブ・エイジングと高齢者にやさしい診療所」をテーマに講演。会員やスタッフ、市民ら40人が参加した。感想を紹介する。



「高齢者は尊敬すべき社会の財産」と高橋先生

高橋先生は、アクティブ・エイジングを「人々が歳を重ねても生活の質が向上するように、健康、参加、安全の機会を最適化するプロセス」との世界保健機構(WHO)の定義を紹介。2002年マドリード国際高齢化対策行動計画の採択を起点に、今年になって書籍『高齢者にやさしい診療所ツールキット(日本語版)』、『世界高齢化にやさしい都市ガイド』の発刊など具体化が進んでいると語った。

印象的だったことを列挙すると「高齢者は去り行く厄介者ではなく、人生経験豊かな尊敬すべき大先輩」「歳をとることは、人間としてダメになっていくことではなく、人間の尊厳を磨いていくことである」「少子高齢化=ネガティブではない。少子は対策が必要だが、高齢化は歓迎されるべきことで熟語にするのはおかしい」「高齢者が生き活きと暮らせる社会、それは若者や子ども達に夢と希望を与える社会」「高齢化で医療費と社会保障費増大により経済的負担が手に負えなくなるとの概念に対する答えは『その可能性は低い』。保健予防と高齢な家族に対する社会的支援で医療費はコントロールできる」「高齢者こそ、保健・予防が重要」「元気な高齢者が医療を救う」として転倒・転落の予防で7000億円以上の医療・介護費が削減できるとの事例を紹介。「老化は病気ではなく発達過程の一つである」などなど。

老年医学の四大課題として「物忘れ」「うつ」「尿失禁」「転倒」をあげた。聴講者の顔が輝くような講演だった。



宝塚社保協「後期医療」廃止宣伝行動

新政権は速やかに廃止を

中井通治・脇野耕一理事が副会長をつとめる社会保障をよくする宝塚の会(宝塚社保協)は10月15日、後期高齢者医療制度保険料の年金天引日にあわせ、阪急坂瀬川駅前で制度の即時廃止を求める宣伝・署名行動を行った。9人が参加し、1時間で88筆の署名を集めた。

街頭宣伝にたった中井先生は「総選挙で自公が大敗し、『後期制度』は速やかに廃止されると思いまや、長妻厚労相は『2012年まで制度を存続させる』としている。保険料の上がり続ける同制度は即時廃止し、元の老人保健制度にもどすのが新政権の責務」と市民に訴えた。



民主党を中心とする政府の態度を市民の方に丁寧に説明

宝塚市でヒブワクチン問題で一步前進

定期接種化求める意見書採択

宝塚市議会9月定例会において、このほど細菌性髄膜炎を予防する「ヒブワクチン」の早期の定期接種化を国に対して求める意見書が全会一致で採択された。

この問題については、中井通治支部長、脇野耕一副支部長が宝塚社保協として、同市に対して定期接種化と自己負担分の公費助成を求める申し入れを5月に行っている。市民世論の高まりを受け、田中こう市議(共産)らが、意見書案を議会に提出したことが実った格好。